

科目名	担当教員	学期	単位
英語ライティング入門B (ジャーナリズム)	小西 和久	後期	2

講義概要

英文ジャーナリズム・ライティングでは当然のことながら、必要な情報を読者の視点に立って、簡潔明瞭な文章で表現することの重要性が常に強調されている。一方、多くのニュースはその核となる情報と周辺情報で構成されるが、後者のみを切り離して独立した文章で提示した場合には読者にとっては退屈な内容に成りがちで、英文ジャーナリズムではこれを“flat spots”などと呼んでいる。

このため英文ニュース作成では、核になる情報をもとに作成した文に、周辺情報を盛り込んだ文、節、あるいは句を、文頭、文中、文末に適宜接合していく“hook-on”とも称される凝縮且つ複合化された文章を作成する技法がしばしば用いられる。例えば、次のロイター電のニュースでも下線部でこの技法が使われている。

Tech stocks were left behind, however, after Dell Inc fell by its most in seven years after a disappointing outlook, driving a 0.3 percent drop in the Nasdaq for the day. Investors also appeared to be rotating money from tech, until recently a market leader, and into the downtrodden financial sector.

しかし、この凝縮・接合のプロセスが適切になされていない場合には、簡潔明瞭であるべき文章が読み難く誤解を招くものになることがある。

こうした背景から、本授業では、それぞれに問題がある英文を提示し、これを書き換えることで、まずは簡潔明瞭な英文を書くために必要とされる具体的な技法を習得し、次のステップとしてどのように凝縮・接合された英文が読者の理解の妨げとなるのか、どのようにこれを回避するのかといったポイントを検討したい。

シラバス

- [第1回] 簡潔明瞭な英文の作成法(1)
- [第2回] 簡潔明瞭な英文の作成法(2)
- [第3回] 簡潔明瞭な英文の作成法(3)
- [第4回] 名詞化構文と受動態の利点と欠点
- [第5回] 文章スタイルの留意点(1)
- [第6回] 文章スタイルの留意点(2)
- [第7回] 誤結合の構造(1)
- [第8回] 誤結合の構造(2)
- [第9回] 誤結合の構造(3)
- [第10回] 並立構造の種類と利点(1)
- [第11回] 並立構造の種類と利点(2)
- [第12回] 並立構造の種類と利点(3)
- [第13回] 句読法(1)
- [第14回] 句読法(2)
- [第15回] まとめ・評価

教科書

プリント配布

参考文献

評価方法

試験に出席を加味する。

関連URL

備考